

# 宮城県看護協会 仙台東支部だより

## 仙台東支部 支部長より

平素、仙台東支部活動にご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。度重なるコロナの波により、皆様におかれましても、大変なご苦労をされていらっしゃることに、お察しいたします。今後、支部として地域ネットワーク強化に努めて参ります。支部の資源である「人財（材）の活躍の場」・「しくみ」など構築していく所存です。

仙台東支部長 和知洋子 (仙台オープン病院)

## みやぎの・まつり

10月16日3年ぶりとなる「第32回みやぎのまつり」が榴ヶ岡公園にて開催され、まちの保健室事業として職能委員と東支部委員の方々にご協力を頂きました。晴天に恵まれたため、多くの地域の方々が訪れ、血圧測定は68名、体脂肪測定は132名、肌年齢チェックは107名、健康相談は13名の方に参加して頂きました。健康相談では体脂肪に悩む方が多くいらっしゃいました。コロナ禍で感染対策をしながらではありましたが、地域の方々との交流により、気分をリフレッシュする機会となり楽しい1日を過ごすことができました。

職能委員 角谷美代子 (光が丘スペルマン病院)

## 教育研修 「最後まで美味しく食べる」を支援する

10月7日に摂食・嚥下障害看護認定看護師の高橋奈美先生を講師に「最期までおいしく食べる」を支援する、をテーマにZOOMによる研修会を開催しました。多施設から約60名ほどの参加があり、関心の高さを感じました。グループワークでは、意見交換を行い、食べることの支援の大切さを改めて感じる事ができました。

教育委員 宍戸広美 (仙台オープン病院)

## 管理者ネットワーク

11月12日に3年ぶり開催することが出来ました。「コロナ禍における地域連携の看護管理者の役割と課題」というテーマのもと宮城県看護協会石井幹子会長に講演して頂きました。看護職は財産であり、コロナ禍での役割はとても重要である。という内容で、看護職の役割を振り返るきっかけとなりました。また、グループワークでは各々の職場の課題や対応について意見交換ができました。アンケート結果より、参考になった93%、情報共有できた86%と多数の方々が関心を持って参加し意義のある会となりました。今後は参加方法の検討などを行い、より多くの会員の皆様に参加して頂ける会にしていきたいと考えます。

広報委員 岡崎純子 (東北薬科大学病院)

### アンケート結果より

参考になることはありましたか



- あった
- まあまああった
- あまりなかった
- なかった

嚥下機能が低下した人は食べることが  
どれだけ命がけなのか実感した

認定看護師さんや他施設の看護師さんの  
意見や考えが知れて良かった

